



さりげない安心と感動する制動を

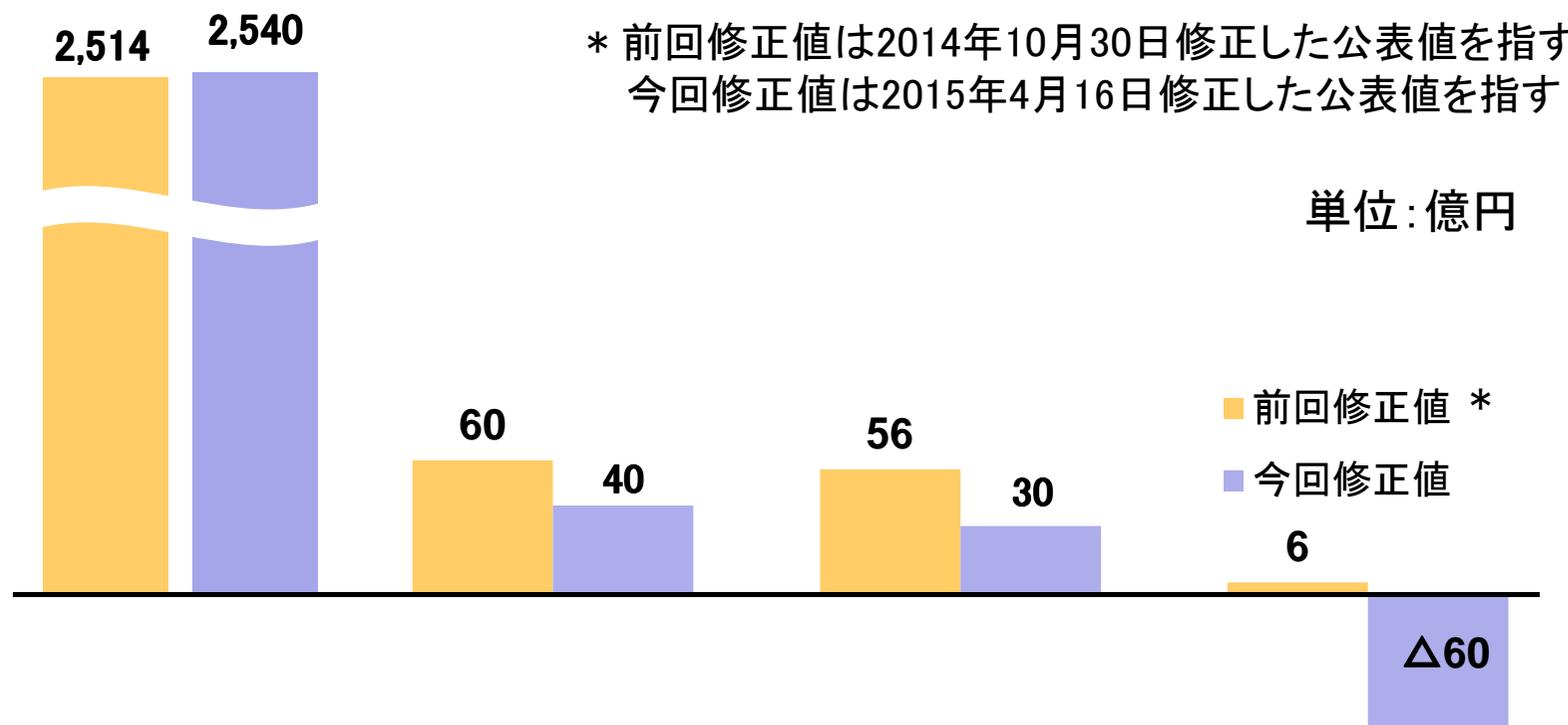
2015年3月期連結業績予想修正 説明会資料

2015年4月21日
曙ブレーキ工業株式会社

2015年3月期 通期連結業績予想

2015年3月期：連結業績予想（対前回修正値）

営業利益は20億円の減益。減損などあり純利益は赤字



	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回差	+26	△20	△26	△66
前回比	+1%	-33%	-46%	-

2015年3月期：地域別の業績予想

日本・北米・インドネシアで営業利益が減少

単位:億円	売上高				営業利益			
	前回修正値	今回修正値	差	為替換算	前回修正値	今回修正値	差	為替換算
日本	866	867	1	-	44	36	△ 8	-
北米	1,355	1,403	48	22	△ 21	△ 32	△ 11	△ 1
欧州	95	88	△ 7	0	△ 6	△ 6	0	0
中国	144	143	△ 1	2	17	17	0	0
タイ	54	55	1	1	3	3	△ 1	0
インドネシア	166	163	△ 3	2	21	18	△ 3	0
アジア*	364	361	△ 3	5	41	38	△ 4	1
連結消去	△ 166	△ 179	△ 13	-	2	4	2	-
合計	2,514	2,540	26	27	60	40	△ 20	0

「為替換算」は「差」の内数です。

為替レート： USD: 104.8→106.5、EUR: 138.7→138.4、CNY: 17.0→17.3、
THB: 3.2→3.3、IDR: 0.0089→0.0090

* アジア累計は、域内取引消去前の単純合計

2015年3月期: 地域別の業績予想修正理由

北米

単位: 億円

北米

売上				営業利益			
前回予想	今回予想	増減	為替	前回予想	今回予想	増減	為替
1,355	1,403	48	22	△21	△32	△11	△1
<p>下期(7月-12月)に於いて、特に米系完成車メーカーからの受注や補修品向け売上が増加、為替の影響もあり、売上は約4%(48)の増加。</p>				<p>ABE(△3): 日本からの設備保全支援、他拠点への生産分散による負荷の軽減など対策は講じてきたが、4Qも休暇返上の稼働などで残業含む追加費用が発生した。 ABG(△3): 日系完成車メーカーへの補修部品と一般市販向けの販売拡大により、受注が急増、3直7日体制での稼働となり、労務費、緊急輸送費が嵩んだ。 ABCT(△2): ABEの生産混乱の影響で、計画していたABCSからの生産移管が遅れ、輸送費などの削減が進まず。 その他(△2): 一部客先との価格交渉遅れ。</p>			

2015年3月期：地域別の業績予想修正理由

日本とインドネシア

日本

単位：億円

売上				営業利益			
前回予想	今回予想	増減	為替	前回予想	今回予想	増減	為替
866	867	1		44	36	△8	
アジアなど海外市場の景気低迷・減速の影響もあり、OEM△3や海外向け補修品△7などの製品売上高が減少したが、産業機械・鉄道・国内向け補修品や試作などの売上が増え+11、全体的には微増。				製品売上減少△3、合理化未達△3、エネルギーコストの高止まり△2などにより、△8。			

インドネシア

売上				営業利益			
前回予想	今回予想	増減	為替	前回予想	今回予想	増減	為替
166	163	△3	2	21	18	△3	
客先からの受注が低迷した他、為替の影響もあり、減少。				受注減少に加え、ルピア安の影響により原材料価格が上がり、調達コストが上昇した。			

2015年3月期: 営業利益から純利益まで(対前回修正値)

経常利益30億円、税前利益△4億円、当期純利益△60億円

前回修正値

主な勘定

営業利益	60		
営業外収支△4		支払利息	△12
		為替差益	+7
		受取配当金	+4
		その他営業外費用	△3
経常利益	56		
特別損益 △9		固定資産減損損失 および売廃却損	△9
税前当期純利益	47		
		法人税等	△23
		法人税等調整額	△4
		少数株主利益	△14
当期純利益	6		

今回修正値

単位: 億円

主な勘定

営業利益	40		
営業外収支△10		支払利息	△12
		為替差益	+4
		受取配当金	+4
		その他営業外費用	△6
経常利益	30		
特別損益 △34		固定資産減損損失 および売廃却損	△34
税前当期純利益	△4		
		法人税等	△20
		法人税等調整額	△24
		少数株主利益	△12
当期純利益	△60		

2015年3月期: 営業利益から純利益まで(対前回修正値)

固定資産の減損30億円、繰延税金資産の取崩し20億円

単位: 億円

	前回修正	今回修正	差額	主な理由
営業外損益	△4	△10	△6	環境対策費用(△1、岩槻土壌調査ほか) 為替損益(△4、メキシコペソ安影響など)
特別損益	△9	△34	△25	生産再編の為の生産設備の減損(△17、 岩槻、設備開発) 土地建物の減損(△8、三春、福島) センサー事業の固定資産減損(△4)
法人税等	△27	△44	△17	法人税(△23 ⇒ △20) 繰延税金資産の取崩し ①将来課税所得の見直し△10 ②税制改正関連△10
少数株主	△14	△12	2	インドネシア

来期に向けての取組み

日本

日本

売上高 ⇒ ほぼ前期水準

営業利益 ⇒ 開発費用やグローバル関連費用が先行し、今期より減少する見込み

	戦略	内容
1	生産性向上、在庫削減 (主力工場の岩槻再創)	1. エネルギー効率の高い設備導入 2. 工場内レイアウト改善
2	補修品強化	1. 国内外の第2純正の拡販 2. 品揃え充実による一般市販拡大
3	固定費削減	1. 業務効率改善による残業削減 2. 経費削減
4	将来に向けた技術の差別化	1. ハイパフォーマンス用ブレーキ開発推進 2. 電動パーキングブレーキの開発強化 3. 環境負荷低減を目指した銅などを含まない摩擦材の開発

来期に向けての取組み

欧州・アジア

欧州

売上高 ⇒ 販売拡大により増加の見込み

営業利益 ⇒ 拠点創業費用により、損失拡大の見込み

	戦略	内容
1	高性能ブレーキビジネス拡大	1. 開発体制の強化 2. スロバキア工場の本格稼動
2	既存生産体制の改善	1. アラス工場の合理化 2. 収益構造の適正化

アジア

売上高 ⇒ 新規受注拡大により増加の見込み

営業利益 ⇒ 増収効果で増益の見込み

	戦略	内容
1	グローバルプラットフォーム・ビジネスの拡大	1. 中国(GM向け) 2. インドネシア(CMF1)
2	域内補修品ビジネスの伸張	1. 第2純正(タイ)の立上げ 2. シンガポールからの広域カバー開始

北米状況

生産・開発拠点 - 米国

4工場 + 1研究開発センター



ディスクブレーキ



ドラムブレーキ



ディスクブレーキパッド



ディスクブレーキ



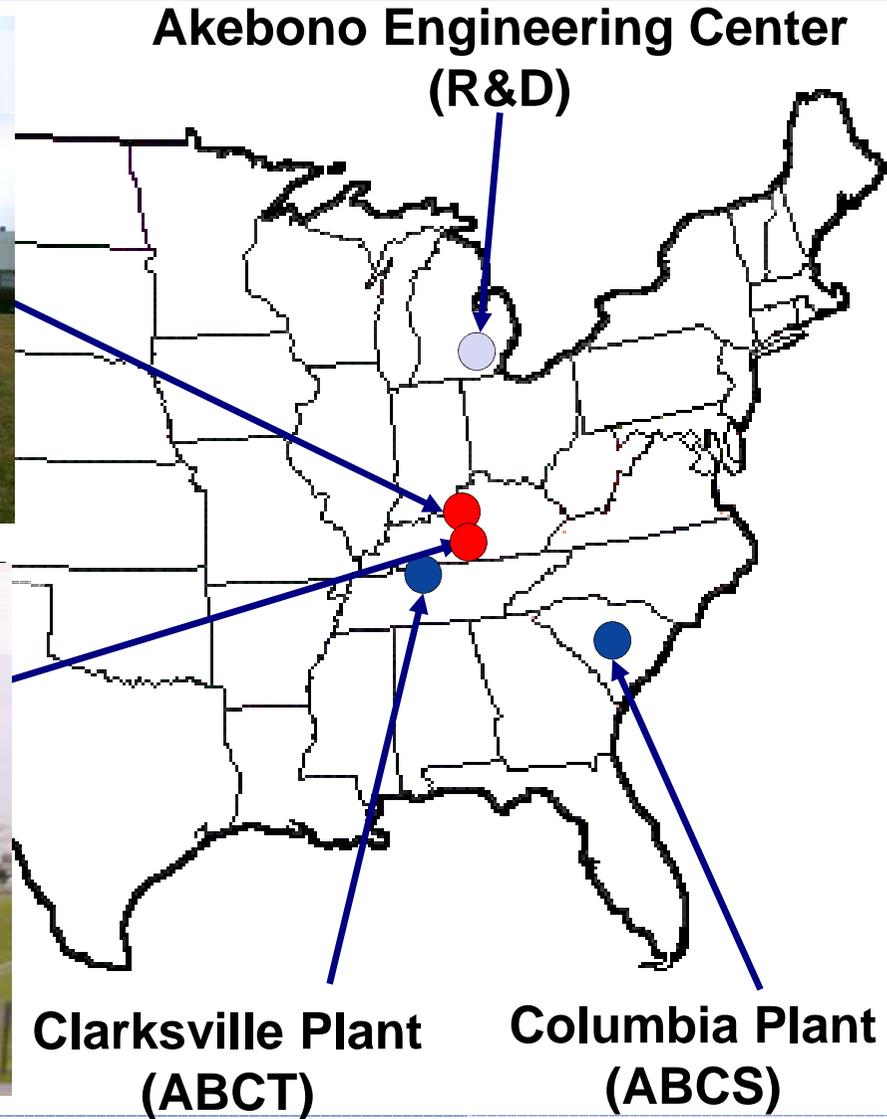
ディスクブレーキ
パッド



Elizabethtown Plant (ABE)

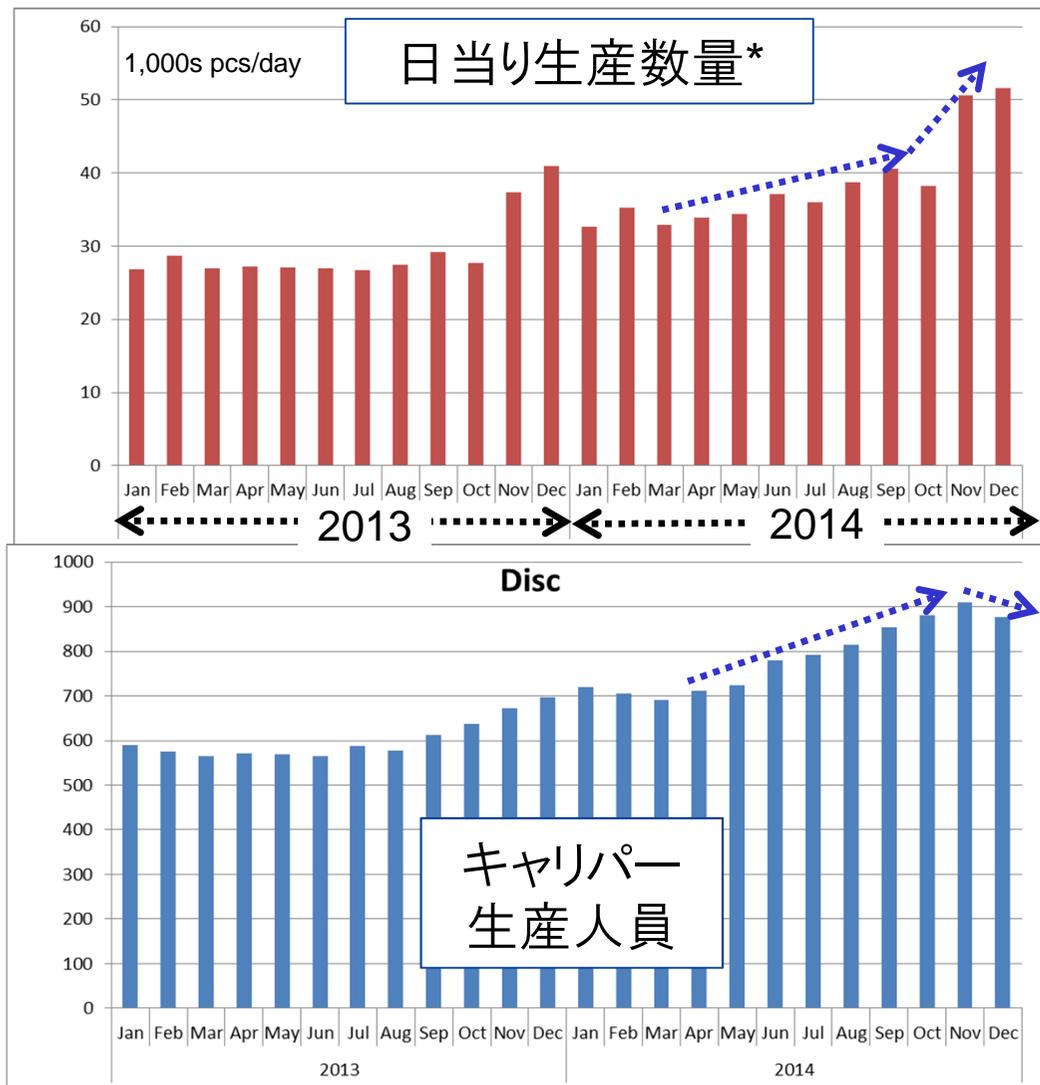


Glasgow Plant (ABG)



ABE キャリパー生産と人員推移

3Q以降急激に上昇



- ①生産数量は8-10月がピーク。休日の多い12月は数量も減少したが、日当りの生産数量は上昇（一部完成車メーカーはクリスマス休暇中も稼働）
- ②週末の残業出社率は、8月の82%から15年1月以降は66%に減少

* 各月の生産数量を、その月の通常稼働日数で除したもの

ABE生産問題の対策と進捗状況

前回策定したABEの短期施策の進捗

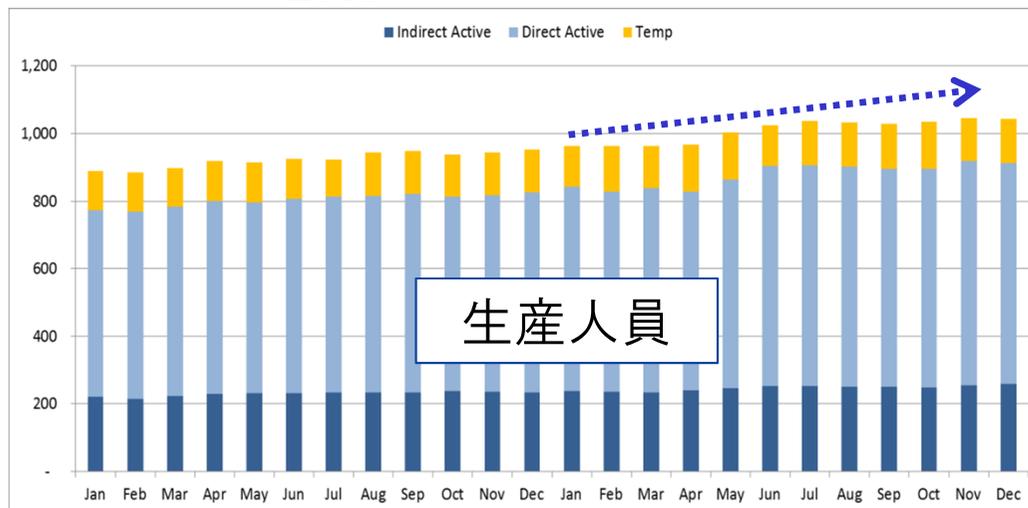
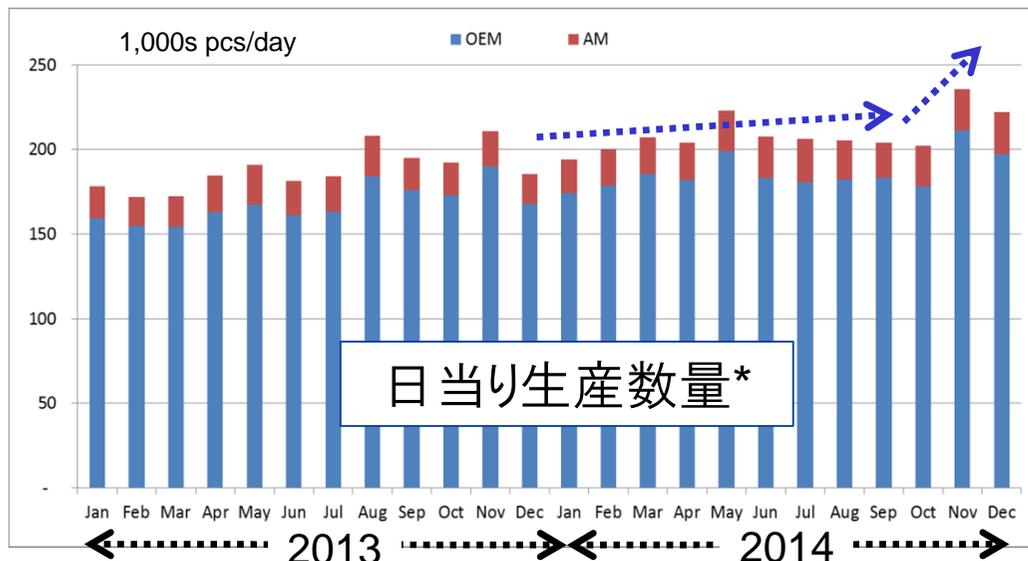
	短期施策	進捗状況
①	日本の生産技術要員派遣	14年8月より、3回にわたり設備保全・生産技術関連で日本から応援派遣
②	他拠点能力活用	岩槻、ABCSへ4モデルを移管完了、追加でABCTへの移管も準備中
③	可動率*向上	14年8月以降、1月迄にディスクキャリアの機械加工工程は79%と8.4%の改善、組立工程は71%と3.1%の改善
④	バイパスライン*の設定	4 linesを設定済み

*可動率＝稼働可能率、availability

*バイパスライン＝高負荷の際に並行流動可能なライン

ABG パッド生産数量と人員推移

4Qで急激に受注が増加



- ① 4Q以降に生産が伸び、日当り生産数量では11月、12月が平常の2割以上、ほぼ全ラインで3直7日体制に（一部完成車メーカーはクリスマス休暇中も稼働）
- ② 少量多品種の受注も多く、年末に向けて可動率が落ちた
- ③ 離職率（turnover）が高く、人員確保のために人員数が高止まり

* 各月の生産数量を、その月の通常稼働日数で除したもの

来期に向けての取組み

北米

北米

売上高 ⇒ 市場の好調、新規受注等により大幅増加
営業利益 ⇒ 上期は生産混乱影響残るが通期は黒字化

	戦略	内容
1	生産混乱の収束	1. ABE: 他拠点への生産移管による生産負荷の軽減(実施中) 2. ABG: 摩擦材生産ラインの新設(3月から4月末)による生産能力増強(約15%)
2	生産品目・拠点の最適化	1. グローバル: 生産余力のある他地域への生産移管による北米負荷の軽減 2. 北米内: ABCSのアルミ専業工場化、メキシコ工場の位置づけの明確化
3	現地人財の育成	日本の熟練スタッフを派遣しトレーニング強化による設備保全のレベルアップ
4	見える化の推進	1. 全工場: ERP定着による管理体制の強化 2. ABE: 外部倉庫の廃止
5	原価低減	価格見直し、付加価値の高い製品拡販

添付資料

2015年3月期: 連結業績予想

各地域四半期毎の実績と予想

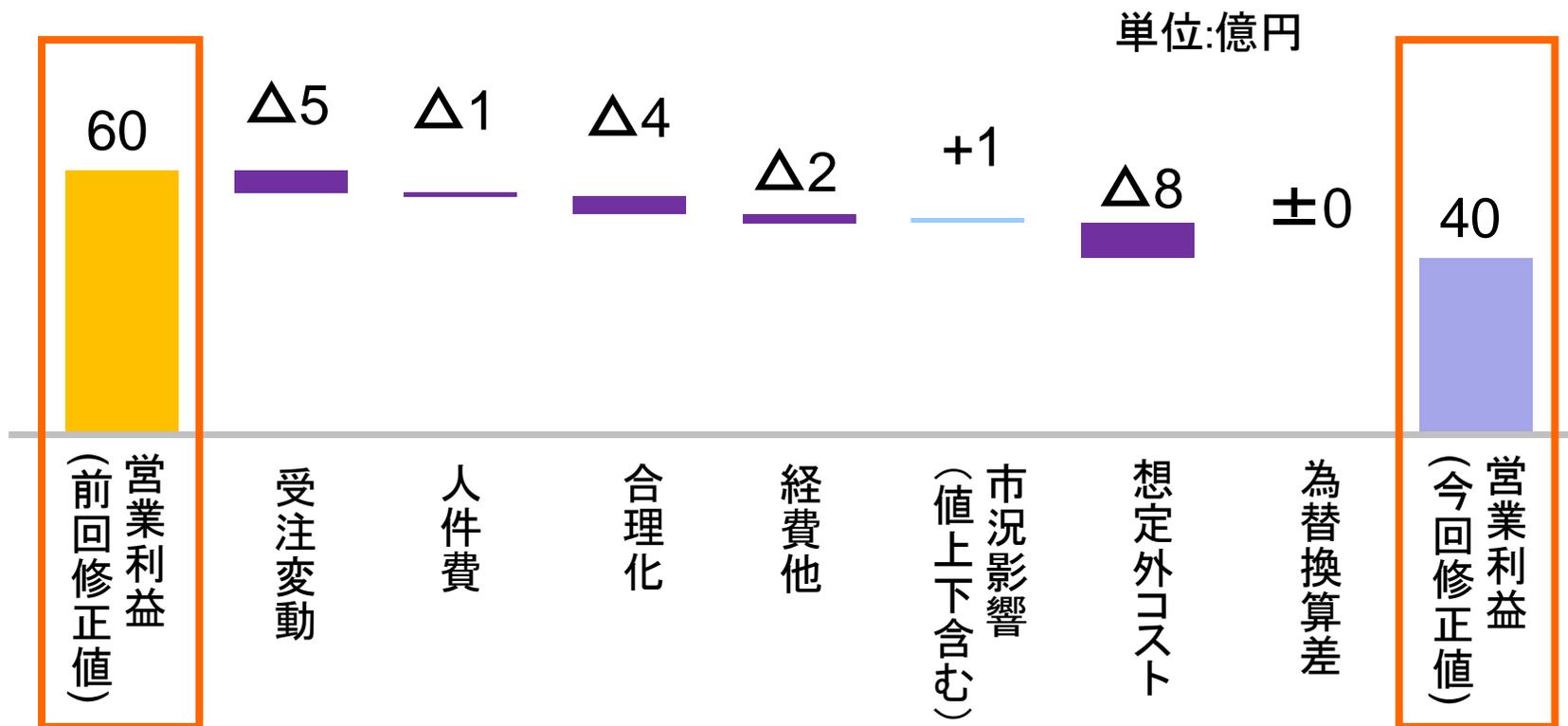
単位: 億円	売上高					
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q予想	通期
日本	215	219	211	646	221	867
北米	318	346	352	1,016	388	1,403
欧州	20	22	23	65	23	88
中国	29	34	35	98	45	143
タイ	14	12	14	40	15	55
インドネシア	42	42	38	122	41	163
アジア	85	89	87	260	101	361
連結消去	△ 38	△ 44	△ 45	△ 127	△ 52	△ 179
合計	600	632	626	1,857	683	2,540

営業利益					
1Q	2Q	3Q	累計	4Q予想	通期
6	10	4	20	16	36
△ 3	4	△ 19	△ 18	△ 13	△ 32
△ 2	△ 1	△ 2	△ 4	△ 1	△ 6
4	5	4	12	5	17
1	0	1	2	1	3
6	5	3	14	4	18
11	10	7	28	9	37
1	1	1	3	1	4
12	25	△ 9	28	12	40

現地通貨ベース	売上高					
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q予想	通期
北米: \$ mil.	310	340	333	983	334	1,317
欧州: EUR mil.	14	16	16	46	18	64
中国: CNY mil.	175	210	202	587	240	827
タイ: THB mil.	439	387	418	1,244	423	1,667
インドネシア: IDR bil.	473	481	435	1,389	422	1,811

営業利益					
1Q	2Q	3Q	累計	4Q予想	通期
△ 3	4	△ 19	△ 18	△ 12	△ 30
△ 1	△ 1	△ 1	△ 3	△ 1	△ 4
22	29	21	72	26	98
34	7	21	62	14	76
68	58	34	160	40	200

2015年3月期: 営業利益増減分析(対前回修正値)



日本	44	△3	△1	△3	△3	+2			36
米国	△21	+1				△2	△8	△1	△32
欧州	△6	△2			+1	+1			△6
アジア	41	△2	△0	△1	△0	△0		+1	38
連結消去	2	+2							4

※想定外コスト: 米国での過度な生産負荷によるもの。ABE労務費△3、ABG労務費・輸送費△3、ABCS輸送費△2

業績見込み等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいた予測であり、実際の業績は当社グループをとりまく経営環境の変化、市場の動向、為替の変動等の様々な要因によりこれらの記述とは大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。